



胴上げの瞬間。リーグ優勝は、北海道に本拠地を移してから4度目となる。



——ファイターズは、札幌のまちづくりに協力していると聞いています。
市長 そうですね。札幌市と「まちづくりパートナー協定」を結び、幅広く活動していただいていますし、「さぼーとほっと基金」の制度を通じて寄付をいただき、東日本震災で被災した福島の子どもたちを球場に招待することもできました。市の仕組みを活用して選手や球団の皆さんの気持ちをまちに届けていただいています。

監督 地域の皆さんの支えがなければ、私たちは野球ができません。ファイターズは、地元を大切にする意識が強いチームですので、こうした活動にも積極的な選手が多いですね。2013年からは、全道179市町村のまちおこしに10年計画で協力する「応援大使」の取り組みも始まるんですよ。

——監督のお話から、北海道への愛が伝わってきます。

監督 北海道のどの市町村も、個性ある素晴らしいまちばかりで、本当に大好きです。せっかく北海道を本拠地としているのですから、大自然や美しい四季の移り変わりを楽しみたい。夏には山で山菜採りをし、冬には雪かきをやって、春になって、さあ野球やるぞ、というふうだね。

市長 今はまさに雪の季節ですけれども、雪かきをする体力がない一人暮らしの高齢者が増えていまして、市の課題の一つになっています。そこで、選手から子どもたちに「雪かきをやろうよ」と呼び掛けていただけるとうれし

企業と市が手を携え、地域貢献を進める仕組み **まちづくりパートナー協定**

札幌をより魅力あるまちにすることを目指し、市と企業が力を合わせてまちづくりに取り組むための協定です。現在、ファイターズや日本ハム北海道販売をはじめ、計9団体が市と協定を結んでいます。

ファイターズと市が行った取り組み

- 新一年生にランドセルカバーを配布(2012年～2013年)
- 聴覚に障がいのある方120人を試合に招待(2011年)
- 選手の管理栄養士による食育講座(2012年) など



交通事故を予防するランドセルカバーは、マスコットキャラクター「B・B」が描かれており子どもたちにも好評。

寄付でまちづくりを支える仕組み **さぼーとほっと基金**

市民からの寄付を、市民活動団体に助成し、まちづくり活動を支援する仕組みです。被災者を支援する市民活動にも助成しています。

基金を通じて集まった寄付金を活用して招待した福島の子どもたち。熱心に選手に声援を送っていた。



「まちづくりパートナー協定」「さぼーとほっと基金」に関するお問い合わせは、市民活動促進担当 ☎211-2964

読者プレゼント

全て栗山監督の
 自筆サイン入り!

- ①「レプリカユニフォーム」を3人に!
- ②「色紙」を3人に!
- ③「ポスター」を3人に!

応募
 方法

はがき、ファクス、Eメール。住所、氏名、年齢、電話番号、本誌の感想、希望賞品名を記入し、1月23日(水)(消印有効)までに広報課(1ページ)へ。多数時抽選。